

倫理 研究課題 <源流07>

教科書：p ～ 資料集：p ～ ノートp ～

●イエスの思想と行動

①律法主義との闘い

律法の本来の精神（目的・趣旨）を明らかにし理解させようとした。（×律法の否定・廃止）

（例）「安息日に麦の穂を摘む」、「安息日に手の萎えた人を癒す」

②神の愛 & 神への愛 & 隣人愛

○神＝愛 （≠パリサイ派の「裁きの神」、（≠「恋愛の神」）

⇒思いやり、理解・同情、励まし、希望、許し…。 ∴神は究極の理解者

∴「神」→理性や愛などの擬人化。∴「神を信じる」≡「希望や愛を忘れずに生きる」

神の愛（アガペー）：神はすべての人を愛している（罪人・義人、敵・味方の区別なく、
無償かつ無条件で）。∴神を愛していない者をも神は愛している。

○神への愛：「人は、心をつくし精神をつくし思いをつくし力をつくして、神を愛せよ」

○隣人愛：「人は、自分を愛するように（&神が人を愛するように）相互に愛し合え」

「人からしてほしいと望むことを、周囲の人々にもせよ」（黄金律）

（例）「良きサマリア人」、「姦通の女」、「山上の垂訓」など（特に弱者を愛している）

∴努力することの必要を認めながら、同時に人間の不完全さ・弱小さをも肯定している。

→強がらない・偽善をしない：「右のほおを打たれたら左を向けよ」、「人を裁くな」

→「どんな悪人にもそれなりの事情あり」と考え、ことさら「正義」を振りかざさない。

★「安息日は人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない」の意味は？

.....
.....

★「罪を犯したことの無い者が石を投げよ」という言葉で、イエスは何を言いたいのか？

.....
.....

★「神はすべての人を愛している」ってどういうこと？（現代社会の言葉で言い換えると？）

.....
.....